

放送大学通信

on air

オン・エア

no. **67**

発行日 平成14年9月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111(代)

CONTENTS

座談会 面接授業に地域の特色を	1
大学通信編集委員会委員長(司会) 阿部 齊	
鳥取学習センター所長 安室 喜正	
島根学習センター所長 有馬毅一郎	
岡山学習センター所長 内田 仙二	
広島学習センター所長 小笠原道雄	
山口学習センター所長 井手 明雄	
放送大学学園20年の歩みと今後の展望を語る会	6
平成14年度開設改訂科目紹介	
障害児の教育について 帝京大学教授 大南英明	10
自然と文化の記号論(02) 昭和女子大学教授 池上嘉彦	11
芸術文化政策I(02) 教授 徳丸吉彦 / 東京工芸大学教授 利光 功	11
学習センターの整備	
海と太陽の町 八戸市にサテライトスペース	12
世界文化遺産の姫路城下にサテライトスペース誕生	13
就任のあいさつ 助教授 大石 和欣	14
放送大学名誉教授の称号授与	14
平成14年度第2学期教務スケジュール	15
教務のお知らせ	16

面接授業に地域の特色を

座談会

大学通信編集委員会委員長(司会) 阿部 齊	岡山学習センター所長 内田 仙二
鳥取学習センター所長 安室 喜正	広島学習センター所長 小笠原道雄
島根学習センター所長 有馬毅一郎	山口学習センター所長 井手 明雄



阿部(司会) 今日是中国地方の学習センターの所長さんにお集まりいただいております。

学習センターでいろいろご苦労されていることがおありでしょうが、その一つが面接授業だと思います。中国地方では地域の

特色を生かした面接授業に取り組んでいらっしゃるということで、そのお話は後で伺いますが、まず最初に、各学習センターの所長さんが面接授業に取り組むにあたってどういうご苦労があるか、一言ずつお話しただけ

ればと思います。

最初に鳥取学習センターの安室所長、お願いいたします。

安室 私はこの4月から所長を仰せつかったものですから、わずか2カ月間の経験ですが、その中で来年2月の面接授業の先

生方の人選をしました。そこで特に重点をおいたのは、地元で比較的知名度が高く、学生さんがこれは出てみようと思うような魅力ある講義をしてくださる方ということでした。それでいろいろと情報を集めたのですが、知名度が高く魅力のある先生ほど日程調整が難しく、限られた面接授業期間の中に当てはめるのが大変でした。それでも先生方は放送大学にご理解があり、狙い通りのメンバーを揃えることができました。

もう一つの特徴として、特に鳥取の場合は、鳥取環境大学が近年できまして、民間で大変アクティブにやっておられる方々が教員として集められました。また、鳥取大学の教育学部が改組されて教育地域科学部ができて、この中に非常にユニークな先生、民間から大学に来られた先生がおられまして、こういう社会と密着した実践的な学問体系をお持ちの先生方をスカウトできたことは非常に良かったと思っています。

阿部 次に鳥根学習センターの有馬所長、お願いします。

有馬 安室先生と同じように私も4月からの赴任で新人でございます。従いまして面接授業の計画に関しましては、本年度末の集中型の計画を始められている程度でございますので、その範囲で感じていることを申し上げます。

大体安室先生と同じようなことですが、鳥根の独自性として、人口の少ないところですし、周辺に国立大学、公立大学を含めて大学の数が非常に少ないということで、面接授業を開講するにあたってお願いするところがあまり多くない、人材が少ないと言った点で今後とも多少苦労するところがあるかなと思っています。

それから共通科目などの基礎的な科目をどのように充実していけばいいかというようなことに苦慮するわけです。外国語でも英語などは非常にニーズが高いのですが、例えば地域の特色を出すとい

うような意味で、韓国語、中国語等の開講に力を入れるということを考えております。

それから、例えばロボット工学のような先端の科学を研究なさっている先生がいらっしゃいますので、できるだけ新しさというか、最新テクノロジーに関する講義内容のイメージをもったものも少しは混ぜたいというようなことも意識しております。

安室先生も言われましたように、地域の特色とか受講者のニーズのようなことを考慮した開講科目に関してやはり一番配慮していく必要があるだろうということ



阿部 齊
(大学通信編集委員会委員長)

で、例えば鳥根の場合は医科大もありましたので、介護とか健康に関する科目を今後継続的に一つぐらいはどこかで出すということも考えております。

阿部 次に岡山学習センターの内田所長、お願いします。

内田 私は就任して3年になりましたが、当初我々のセンターの開講は1学期に7科目、1年に14科目ぐらいだったと思います。それが1学期14科目になり、本年度から20科目になるということです。最初は7科目ですから、共通科目1科目、専門科目6科目ということで、ちょうど7で割って、それぞれ1科目を提供していたわけですが、20科目になってまいりますと、もちろん7で割るという考え方も

ありますが、学生のニーズ、学生の専門別といいますが専攻別を考慮しなければならぬ時期にきているのではなからうかと思えます。学生は専攻分野がずいぶん偏っておりまして、当センターでは例えば「生活と福祉」などは200名位おりますが、「自然の理解」だと50名位です。そうしますと、専攻間の公平性ととも学生にニーズということを十分に考えなければいけないと思えます。

そういうことで、当初は講師も岡山大学を中心に求めていました。これはもちろん自分の知り合いの先生方にもお願いできますし、研究要覧等で非常に今日的な研究をしておられるとか、逆に非常に基礎的な研究をしておられるとかいうような人を指名してきたわけです。ところがだんだん科目数が多くなってきますと一人の判断ではどうにもなりませんので、客員教員を動員いたしまして、各専攻でふさわしい先生をお願いするというようなことになりました。さらに20科目にもなりますと、岡山大学のみ範囲ではリクルートが不十分となります。私どものところは6大学・2短期大学と単位互換協定を締結していますので、そちらの先生にも応援をお願いするというようにして、今日では岡山大学約70%、その他約30%というように広く人材を求めているところなんです。

阿部 それでは次に広島学習センターの小笠原所長、お願いします。

小笠原 面接授業について思うことは、放送大学というのは放送メディアを使った授業が中心になりますから、その中で受講生の側からみると、面接授業は先生と学生という直接的な関係を保てるということで非常に関心が深いんですね。問題はその関心に応えられるような科目をこちらがどれだけ用意できるかということだろうと思います。学生側の個人個人にはこういうのがいいのではないかと、ああいうのがいいというよう

な声もあるのですが、それはできるだけ今放送大学が用意している300科目の中から見つけていただく。それと同時に、何かやはり、私たちが共同の面接授業を考える一つの糸口になったように、地域の特殊性というようなものを用意することによって、ある程度面接授業に対する学生の多様なニーズに応えていくということが大切だろうと思います。

教授会などでも、放送大学の国際会議で海外に行ってきた方などから、世界の放送教育の現状などの報告を伺っているのですが、やはり学生と教員、また学生と学生の触れ合いの場というのが放送大学の場合は不足していますから、それをどういう形で補完するかというところに面接授業を位置づけるということが一番の基本だと思えます。

阿部 最後になりましたが、山口学習センターの井手所長、お願いします。

井手 私は開設以来ずっと所長をしていますが、最初はどんな科目を用意したらいいかということがわかりませんでした。本来の目的は放送授業を補完するということだったと思いません。ですからそれを主体に考えました。「面接授業開設に関するマニュアル」が用意されていますので、それに従う方が良いということで機械的に処理していました。先ほどから先生方が言われているように、生涯学習を支援するというのが一番大きな目的ですから、そのことも考えなければいけません。

それから、大学の講義ですから、あまり趣味だけで科目を選ぶというのもよくなくて、大学のレベルが保てるような科目内容にしない

といけないということも考えました。しかし私一人ではなかなか難しいですから、学生に聞いて参考にしました。それから山口県の生涯教育センターの主催でリカレント教育推進協議会というのがありまして、山口県下の大学の先生方もメンバーになっています。その協議会では、社会人教育とか開講講座などのリストが資料として提示されますので、そういった内容を見ながら、山口の特色がなるべく出るようにと考えています。私の出身が山口大学ですから、山口大学の先生方に依頼することが多いのですが、そうすれば山口の特色が自然



安室 喜正
(鳥取学習センター所長)



有馬毅一郎
(鳥根学習センター所長)

□に出てくるのではと、考えております。**阿部** 今の先生方のお話の中で、地域の特色をどう出すかということ

とがありました。これはなかなか難しいところがあるかと思うのですが、たまたま今日お集まりいただいている中国ブロックでは、地域の特色を出すために、ブロックを一つの単位とした面接授業への取り組みをなさっているということですが、その辺について小笠原所長、お話しいただけますでしょうか。

小笠原 たまたま全国に9ブロック、50程度のセンターがあるわけですが、その中で特色を出すといった場合に、カリキュラムの面

らしいますと、地域の特殊性を基にしてカリキュラムを立てる。それは受講者の側からいうと身近な問題ということで関心が高いんですね。地域に根ざしているわけですから。しかしそれが単に地域だけにとどまっていたのでは問題であって、特殊から普遍へというような、そんな見通しのできるカリキュラムができないものかと考えまして、たまたま中国ブロックの所長会議で、何か中国地域の特色を出してやってみようではないかというようなことをみんなで考えたわけです。

その中で今回の面接授業が発足したわけですが、ただ中国地方といっても例えば気候をとっていても瀬戸内海側と日本海側では全然違うわけですね。そういった中で何か共通性がないものか、特色が出せないものかということに腐心したのですが、

昨年実施して、受講生の反応は非常に良かったわけです。それから参加された先生方のほうが非常に張り切って授業の準備をしていたわけですが、第1回としては私たちが考えていたような方向に歩みだしているのではないかと、私には思っております。

阿部 具体的には「中国地方の自然と文化」という形ですでに1回実施して、そして来年の2月に2回目を計画されているということですが、今の小笠原先生のお話につけ加えて何かございますでしょうか。

内田 センターごとに開講する通常の面接授業では、地域に関係する広範囲な課題について総合的に学習を進める機会や、一定の教員グループの指導の下で体系的に学習を進めるケースはまれなように思います。このブロック共同の面

接授業は、地域に共通する広域的なテーマの下で、各学習センターから推薦されたそれぞれの分野の専門家が、共同して授業を進めるシステムになっておりますので、地域の自然や文化などの多様な分野について、多面的・総合的に学習することが可能になります。受講者は、通常の授業とは別に、地域についてより幅広い知識や教養を身につけると同時に、地域をモデルにしているいろいろな課題や考え方について学ぶこともできるなど、この授業の意義は大きいと考えております。

阿部 これに関して学生さんの反応はいかがですか。

小笠原 一応アンケートをとりました。講師が非常に多様で、つまり5人の先生がいるので、短所としては何か授業の内容が連続性に欠けるのではないかという

ようなことは確かにあります。それから、テーマの選び方ですが、「中国地方の自然と文化」ということだと非常に漠然としており、今回はその中の「食文化」ということに絞っていくわけですが、学生さんの反応は、2日間出て、同じ中国地方といっても、共通した面もあるが他方差異もあるということで、非常に関心は高かったし評価もよかったのではないかと私は思っております。

井手 私も受講した学生に聞いてみましたが、評判も良く、今後も継続して欲しいという話でしたので、いい企画だったと思っております。

有馬 島根の参加者が前回少なかったのは、よく調査したわけでは

ら広島まで行くという距離的な問題があります。

ただ、前回と今回計画されているものを見ますと、さっき小笠原先生も言われましたが、今度はテーマが焦点化されてきたということで、受講生のニーズに合うものが明確になってくるという点で、参加者数の動きに注目してみたいと思います。

安室 受講者の地理的なばらつきについては、主催する県が多く、そこから遠くなるほど受講者数が

少なくなるのは当然ですね。学生さんは宿泊費と交通費がかかるわけですから。し



小笠原道雄
(広島学習センター所長)



内田 仙二
(岡山学習センター所長)

□ かし、各県の学習センターに所属する学生さんの立場からすれば、公平なことが大切で、講師の先生5人が移動して各県持ち回りで開催すれば、学生さんにとっては地理的なハンデは一応是正される。ですから、開催県による受講者数の多少の問題は別にして、受講する機会の公平性という面からいうと、やはり各県持ち回りでやるのが大事ではないかというのが、前回の我々のブロックの所長会議で決まったことです。

阿部 来年2月に2回目をおやりになるということですが、これから先もこういう形でずっと続けていけるというようにお考えでしょうか。

小笠原 とにかく5県あるんですから、この5県は各1回程度はやらなければいけないでしょう。それから、これは各所長とまだ相談はしていないのですが、テーマとして、放送大学の6専攻、せめてその専攻の数位はやってみる必要があるのではないかと考えています。

阿部 なるほどね。例えば私は「現代日本の地方自治」という科目を担当しています。地方自治というのはそれぞれの自治体で違うわけですから、例えば岡山の地方自治でだれかに出てもらって、また広島でやっていただいてというふうにやればおもしろいですね。ただ適切な専門家が見つかるかどうかという問題はありますけれども、

地方自治の実務にあたっては人まで広げて考えれば何とかできそうな気はしますし、それができれば地方自治は本来地域に根ざしたテーマですから、学生さんの勉強には非常に役に立つのではないかなという気がしますね。

有馬 この前所長会で話題になっていたのですが、中国地方でいうと、例えば歴史のテーマを掲げた

場合、毛利とか尼子とかという問題があって、それを島根側で研究している人間が語り、また広島側で研究している人が同じテーマで語る。そういうふうに5県から見ると、毛利氏・尼子氏というような視点が出てくると、これまた非常におもしろい問題になると同時に、それは中国ブロックの受講者だけのテーマではなくて全国区としても有効なテーマになるのではないかと考えます。

阿部 そういう試みが行われているということが全国に知られば、地域以外の学生さんが聞きに行くということも十分考えられま

すね。

地域の特色を出す面接授業の取り組み、これは今後もぜひ進めたいと思いますが、それ以外の点も含めて、一般的に言って、面接授業のあり方としては何が一番大切であるとお考えですか。

小笠原 これは非常に抽象的な言い方ですが、先ほど内田先生がお話しになられたように地域の面接授業のコマ数をふやしていただいて、これは非常にありがたいのですが、それに伴ってまた講師をリクルートしなければいけないという問題がありますね。その際に、内田先生がいわれるように地域の著名な人に依頼するのはいいのですが、同時にその先生方が学生に教育的配慮がどれだけできるかということ、ここがやはりこれから先生をお願いするときに大切な点であろうと思います。学生は先生方に、広く勉強の仕方とかそういうものも指導していただくと期待しているんですね。ですから、今後客員教授をお願いする場合には、何か学生の側に立てるような、自分の研究目的だけではなくてもっと教育的な観点で十分に理解できるように客員教授がリクルートできればいいのですが、それはなかなか難しいことだと思っております。

阿部 それは大学の中以外にでも適当な人がいればということも含めてですか。

小笠原 はい。先ほども安室先生が言われたように、今は大学によっては民間の方が入ってきて、今までの大学とは若干違った感覚で授業をされる。学生の反応を聞くと、面接授業で非常によかったというのは、これは学生の側に立ちすぎているのかもしれませんが、何か放送大学の学生の悩みというものをもそれなりに理解してくれるような先生の授業に対して非常に賛同しているわけですね。そういうことで私達は放送大学の教員という客員教授も含めて、授業方法において一般の大学と違うとこ

ろがあるんだということを理解する必要がありますんじゃないでしょうか。そういう先生をどうやってリクルートするかですね。

井手 面接授業の開設というのは、制度の上から科目を多くしなければいけないと思いますけれども、先生方をリクルートするのがなかなか大変だということも新しい問題として出てきています。それで、画一的にできる面接授業だったら全国的に放送で、例えばSCSを利用して面接授業をする方法があると思います。それから個性のある面接授業なら、地方のそれぞれの学習センターでそ



井手 明雄
(山口学習センター所長)

れぞれ個性をもった科目を用意していけば、と思います。今のように科目が多くなると、これはなかなか大変なんですよ。ですから今のメディア教育ももう20年もたったのですから、面接授業のことも含めてこの辺で1回見直す必要があるのではないかと私は思いますけど。

阿部 それは当然見直さなければいけない時期にきています。放送のデジタル化も始まるわけですし、たぶんメディアはもっとマルチ化するというかいろんなメディアを使うという方向へいかざるを得ない時期にきていると思うのです。その中で面接授業もメディアのそういう、例えばさっきいわれたSCSとか、ああいう形でいく

のか、それともやはり面接授業というのはフェース・ツー・フェースでやるのが大事だということでも今のような形を続けていくのか、これはやはり大きな問題ですね。

井手 全部が全部放送メディアを使うという意味ではないんですよ。やっぱりフェース・ツー・フェースというのは非常に大事です。ただ、面接授業の中にも、機械的に消化しなければいけないというのがずいぶんあるんですよ。そういったものはSCSでやればいいです。これもフェース・ツー・フェースですから、全画面接授業ではないとは言えません。あれは今、予備校でもたくさん使っているし、普通の大学でも盛んに使っていますが、それは面接授業として使っていますので。だからSCSが完全にだめだというわけではないと思います。

有馬 今のフェース・ツー・フェースという点で、本部の先生に地方にきて講義していただくというのも良い考えだと思います。ただ、気になるのは、つい先般「心理学実験」という科目を開講しましたら、県外からも多くの受講希望者があり、島根の学生の中に受けようと思っても受けられない人がかなり出ました。そういうことも含めて、本部からおいでになったときに、やはり島根の人たちのニーズに応えるようにするという問題があるのではないかと考えています。

阿部 それはおそらく面接授業の制度や科目・クラスの増設などを検討していかないと解決しない問題だと思いますね。

井手 そうですね。

阿部 今日はどうも貴重なお話をありがとうございました。

放送大学学園 20年の歩みと 今後の展望を語る会

平成14年5月16日、「放送大学学園20年の歩みと今後の展望を語る会」が東京・電が関の東海大学
校友会館で開催されました。

当日は、文部科学省から遠山大臣、小野事務次官、御手洗文部科学審議官、総務省から片山大臣、
佐田副大臣、奥野、町村の歴代文部大臣、鳥居放送大学学園運営審議会議長、菅野NHK副会長その他
学園関係者を含め約500名が出席しました。井上理事長が20年の歩みを振り返り、関係者の尽力・支
援に感謝の気持ちと課題への取組みの決意を述べた後、遠山文部科学大臣、片山総務大臣の祝辞に続
き、懇談が行われ、最後に丹保放送大学長の感謝の挨拶で閉会となりました。

井上理事長の挨拶、遠山文部科学大臣、片山総務大臣の祝辞は次のとおりです。

挨拶

放送大学学園理事長
井上孝美



「放送大学学園20年の歩みと
今後の展望を語る会」の開催に当
たりまして、一言御挨拶申し上げ
ます。

本日は、遠山文部科学大臣、片
山総務大臣をはじめ、多くの御来
賓の皆様方には、大変御多忙中にも
かかわりませず、御出席賜り心
より御礼申し上げます。

昭和40年代初めに、放送を活
用する大学の設置構想の検討が開
始されて以来、旧文部省、旧郵政
省をはじめ多くの関係者の永年に
わたる多大な御尽力により、昭和
56年7月に、大学と放送局とを

併せ有する特殊法人として、放送
大学学園は創設されました。昭和
58年に放送大学を設置するととも
に、昭和59年に放送局を開設
したところであり、昨年、本学園
創設20年の記念すべき日を迎え
たところでございます。

放送大学は、全国的な生涯学習
機関として、テレビ・ラジオの放
送メディアなどを効果的に活用し、
大学教育の学習機会を広く国民
に提供することを目的とするもの
であります。昭和60年4月から
学生を受け入れ、学生数は毎年
増加し、今年で18年目を迎えて
おります。

現在、教養学部学生数は約9万
人を数えるに至っております。こ
れまでに、21,548人の卒業生を送
り出すとともに、70万人もの社
会人等の方々が生徒として学んで
おり、国民の広範で多様な学習ニ
ーズに応えて今日まで順調に発展
しており、我が国の生涯学習の中
核的機関としての役割を果たして
おります。

本学園創設以来の懸案課題であ
りました全国化につきましては、
放送局開局以来、関東エリアを対
象としたUHFテレビ・FMラジオ
の地上波放送に加え、平成10年
1月から通信衛星を利用した「ス
カイパーフェクTV!」のCSデジ

タル放送により全国放送を実施い
たしますとともに、平成10年度
までに全都道府県に学習センター
を設置し、同年度第2学期から全
国すべての学習センターにおきま
して、卒業を目指す全科履修生を
受け入れ、放送大学の全国化を現
現したところであります。

さらに、国民の学習ニーズの高
度化に対応して、放送大学の特色
を活かし、高度専門職業人の育成
などを目的とする通信制大学院文
化科学研究科を平成13年4月に開
設いたしました。本年4月から、
約1万人の社会人の方々が入学し、
それぞれの希望や目的を胸に、よ
り高度な学習への新たなチャレン
ジが始められたところであります。

また、国際連携等のグローバル
な展開につきましては、放送大学
は、「アジア公開大学連合」
(AAOU)に発足当初から加盟し、
アジア各国の遠隔教育機関との相
互交流を行うとともに、平成12
年1月から、世界的な遠隔教育機
関の団体である「国際遠隔教育評
議会」(ICDE)にも加盟し、積
極的な活動を行っているところで
あります。

本学園創設以来今日まで、20
年間にわたり、本学園の充実・発
展に絶大な御尽力と御支援を賜り
ました文部科学大臣、総務大臣、

また、国会議員の先生方をはじめ、
本日お集まりの皆様方、本学園の
先輩の皆様方など関係の皆様方に
改めて心より御礼申し上げます。

さて、昨年12月に閣議決定さ
れました「特殊法人等整理合理化
計画」におきまして、放送大学学
園は「放送等により社会人等に対
し広く大学教育を提供するという
役割を踏まえ、所要の法的措置等
を講じつつ、特別な学校法人とす
る」とされたところであります。
現在、文部科学省におかれまして
は、幕張の同じキャンパスにある
メディア教育開発センターとの再
編統合を含め、新しい組織形態等
の在り方について具体的な検討が
進められているところであり、本
学園としても最大限協力している
ところであります。

本学園といたしましては、創設
20年を契機に、放送大学が多く
の国民の皆様方から御活用と御支
援をいただいているという実績を
大きな力として、この改革期を乗
り越え、本格的な生涯学習の時代
といわれる21世紀におきまして
も、時代や社会の要請に的確に対
応してまいります。放送大学が
「いつでも、どこでも、だれでも」
学べる国民の身近な大学である
とともに、より一層存在感のある生
涯学習機関として充実・発展して
いけますよう、放送のデジタル化、
ITの活用、大学院の充実、学習
センターの整備など当面の課題の
解決に、学園教職員が一丸となっ
て努力を続けてまいります所存で
ございます。

今後とも、皆様方の一層の御理
解と御協力を賜りますようお願い
申し上げます。私の御挨拶とい
たします。

本日は、誠にありがとうございます。

文部科学大臣祝辞 文部科学大臣 遠山敦子

皆さんこんばんは。今日はなつ
かしいお顔がたくさん拝見できま

して、大変うれしく思います。
放送大学学園20周年の記念す
べき年を迎えられましたこと、心
からお祝い申し上げます。

国民の生涯学習に対する大きな
ニーズにこたえるために創設され
ました放送大学が、このように生
生発展されたことにつきまして、
私も大変うれしく思うところで
ございます。去る3月、平成13



年度の卒業式に伺わせていただき
ましたが、実に多様な学生の方々
が、誇り高く卒業していかれる姿
を見て、ああ放送大学は大変成功
しているなど実感した次第でござ
います。

いま井上理事長からもお話がご
ざいましたけれども、20年という
放送大学の歴史を語る前に、私と
いたしましては、この放送大学構
想につきましては本当に長い間の
諸先輩方のご苦勞があったとい
ことを覚えておりまして、実はそ
のことをちょっと語らせていただ
きたいと思った次第でございます。

『放送大学学園10年の歩み』
の中に、放送大学の創設にかかわ
る非常に詳細なデータがございま
す。これをご披露しておりますと
時間がたってしまうので、細
かくは申しませんが、一番
最初のとっかかりは、昭和42年
の当時の剣木大臣によります社会
教育審議会への諮問でございま
した。その答申を受けてから、い
ろんな懇談会、あるいは設置準備
会が設置され、そして多くの学者
の先生方のご努力がありました。
しかし最終的に放送大学学園が法

律として成立するまでに至る、時
の次官ないし局長の方々の大変な
ご努力があったということがござ
います。固有名詞は挙げませんけ
れども、今日も来ておられますた
くさんの私どもの先輩の方々の血
みどろのご努力があったというこ
とをひとつここでご披露させてい
ただきたいと思ひます。そのとき
に、郵政省、それから特に大蔵省
のご尽力もありまして、今日の創
設20周年を迎えることができ
ているわけでございます。

我が省の仕事の中には、比較的
順調に進んだ構想もあるわけです
けれども、非常に長らくの、多く
の方々の努力によって出来上った、
そういう仕事も多いわけですが、
この放送大学もその中の一つ
であろうかと思っております。そ
ういう多くの方々のご尽力の上
に出来上がって、そして20年、こ
れまた多くの方々のご努力によ
って今日を迎えている、そういう状
況を見ますときに、私どもといた
しましては、これをさらに生々発
展させて、日本の国民のためのみ
ならず—そこで蓄積されたコン
テンツというものは私は世界に誇
れる中身ではないかと思っております。
これからの世紀におきまして、
通信技術、情報技術というもの
がどんどん発展してまいると思
いますけれども、そういうものを
用いてさらに国際化をして、他の
言語でもその内容にアクセスで
きようにすることによって、この
放送大学というものが、日本の
国民のみならず、アジアの地域
の方々をはじめ多くの国の方に
利用されていこうになればいい
と思っております。

これからの時代を迎えるにあ
たって、設置形態も近々特別な学
校法人ということで再発足するわ
けですけれども、そのときに以前
の放送教育開発センターとも合
体をして、さらに力強く歩み出さ
れるというふうを考えております。
ぜひとも、これまでのさまざまな
経緯をもった、しかししっかりと

た構想が実現している、その現実を踏まえた上で、将来に向けて大きな歩みを続けていただきたいと思ひます。

今日、いろいろ語りたかったのですが、省略をさせていただきまして、そういうことに思いをはせることの重要性だけお話し申し上げまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

今後のご発展をお祈りいたします。どうもありがとうございました。



その結果、学生数も約9万人と開学時の5倍以上に伸び、その年齢構成等も非常に幅広く、放送メディアの特徴を活用した生涯学習機関としての役割を十分に果たされているものと考えています。

先ほども理事長が「いつでも、どこでも、だれでも」と言われましたが、これからの教育はそうならなければいけないと思ひます。

今後、少子化が進むと7年後には大学は全入になり、入る人より定員の方が多くなります。こういう時代になりますと大学というのはどうなるのだろうと思ひます。やはり教育はどこにいても受けられ、いつでも、だれでもというのが一番大切です。

これからは生涯学習の時代です。知識や情報は1年か2年でス

クラブ化され陳腐化してしまうことから、常に知識や情報を吸収することが重要です。

そういう意味ではこの放送大学学園が、もっともいろいろな機能を拡充されて、国民の生涯学習の意欲に是非応えていっていただきたいと考えています。

こうした中、近年、情報通信技術が急速に発展してきています。放送を通じた生涯学習においては、今後の技術革新を反映して、双方向機能を活用した学習機能、字幕や話速変換などによる高齢者や障害者の方々向けのサービスの提供など、新しい形態も求められております。

放送大学学園におかれましては、これまでの輝かしい着実な実績に加え、放送を通じた生涯学習機関として、今後とも大きな役割を果たしていられることを大いに期待しております。

最後になりましたが、創立20周年を迎えられました放送大学学園の更なる御発展と関係者並びに御出席の方々ますますの御活躍と御健勝を心より祈念いたします。お祝いの言葉とさせていただきます。

放送大学学園20年の歩み

昭和56年(1981)	7月	放送大学学園設立	7年(1995)	10月	地域学習センター(山形・栃木・岡山・愛媛)学生受入れ開始
58年(1983)	4月	放送大学設置	8年(1996)	10月	地域学習センター(秋田・滋賀・奈良・島根・宮崎)学生受入れ開始
60年(1985)	4月	学習センター(群馬・埼玉・千葉・東京第一・東京第二・神奈川)学生受入れ・放送による授業開始	9年(1997)	10月	地域学習センター(福島・茨城・福井・鳥取・山口)学生受入れ開始
62年(1987)	4月	諏訪地区学習センター学生受入れ開始	10年(1998)	1月	CSデジタル放送による全国放送開始
63年(1988)	8月	甲府地区学習センター学生受入れ開始	4月	地区学習センター及び地域学習センターを学習センターに改組	
平成元年(1989)	4月	3学期制から2学期制へ移行	7月	司書教諭資格取得に資する科目を開講	
	4月	第1回卒業式を挙行	10月	学習センター(和歌山・徳島・佐賀・鹿児島)学生受入れ開始	
2年(1990)	10月	ビデオ学習センター(北海道・広島・福岡・沖縄)学生受入れ開始	10月	全国の学習センターで全科履修生受入れ開始	
3年(1991)	10月	ビデオ学習センター(宮城・石川・岐阜・大阪・香川・熊本)学生受入れ開始	11年(1999)	4月	サテライトスペース(旭川市・北九州市)設置
4年(1992)	10月	ビデオ学習センター(富山・静岡・愛知・長崎)学生受入れ開始	12年(2000)	4月	サテライトスペース(浜松市)設置
5年(1993)	4月	東京第三学習センター学生受入れ開始	13年(2001)	4月	放送大学大学院開設
	10月	ビデオ学習センター(青森・岩手・京都・兵庫)学生受入れ開始	4月	東京第一・第二・第三学習センターを東京世田谷・東京文京・東京足立学習センターに名称変更	
6年(1994)	6月	ビデオ学習センターを地域学習センターに改組	4月	サテライトスペース(福山市)設置	
	10月	地域学習センター(新潟・三重・高知・大分)学生受入れ開始	14年(2002)	4月	放送大学大学院学生受入れ・放送による授業開始
			4月	東京多摩学習センター学生受入れ開始(全国50番目)	
			4月	サテライトスペース(八戸市・姫路市)設置	

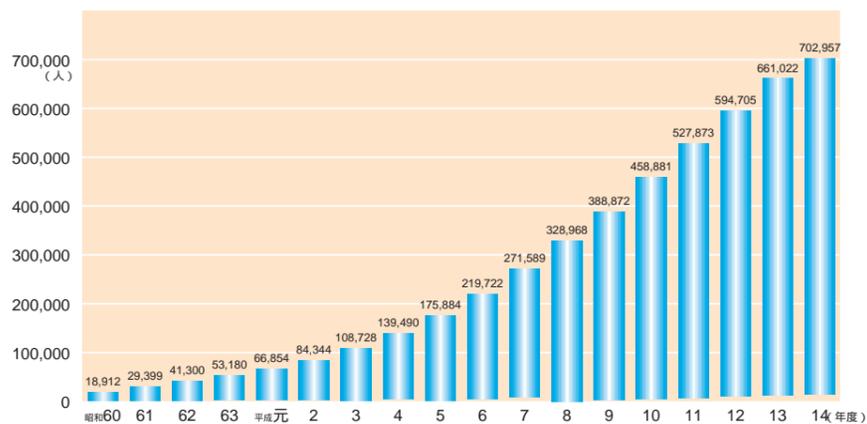
総務大臣祝辞

総務大臣 片山虎之助

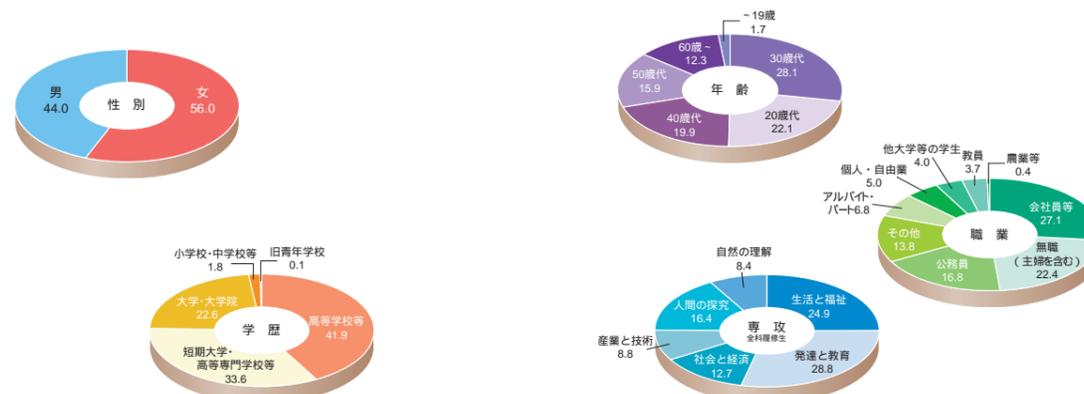
放送大学学園創立20周年にあたり、放送大学学園をはじめとする関係者の皆様方に対し、これまでの御努力に敬意を表すとともに心からお祝い申し上げます。

放送大学学園の放送は、昭和60年の開学当時、地上テレビジョン放送1波、FM放送1波で関東地域のみでの放送により開始されました。それが、現在ではCSデジタル放送による全国放送のほか、ケーブルテレビ事業者の協力の下、ケーブルテレビによる視聴も可能となっております。

学習者数(累計)



在学生の属性 (学部・平成14年度第1学期)(%)



卒業生数

平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	
3月	9月	3月	9月	3月	9月	3月	9月
544	61	602	115	629	113	595	136
719	145	839	149	2,032	513		
平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	計
3月	9月	3月	9月	3月	9月	3月	9月
1,148	518	1,094	543	1,143	563	1,223	682
1,251	888	1,982	1,188	2,133	-	-	21,548

在学生数



平成14年度学部開設改訂科目紹介

障害児の教育について

養護学校等の教諭免許状を取得するために必要な「障害児教育論(02)」、「発達障害児の心と行動(02)」、「障害児教育指導法(02)」の3つの科目について紹介します。

「障害児教育論(02)」は、我が国の特別支援教育・特殊教育(障害児教育)について、制度、歴史、目指すもの、障害児の理解、個別の指導計画、交流教育、養護学校における教育、特殊学級における教育、今日的課題を知的障害教育を中心に解説、説明します。また、諸外国の知的障害教育について紹介をします。

平成13年1月に「21世紀の特殊教育の在り方について(最終報告)」が、まとめられ、特別支援教育という新たな考え方が生まれています。特別支援教育の定義等については、これから検討されることとなりますが、従来から行われている特殊教育・盲学校、聾学校、養護学校、特殊学級における教育、通級による指導 - に加えて、通常の学級(普通学級)にいる特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する支援を含めて考えることとなると思います。

「発達障害児の心と行動(02)」は、次のようなねらいをもって構成されています。

発達障害は、人生の早い時期

に社会的諸関係のなかで現れ、その原因は、脳機能障害にあり、知的障害、言語と学習障害、自閉症、多動症候群等があります。この科目では、発達障害を持つ子どもの心と行動を理解するために、発達の観点と学際的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎となることをねらいとしました。

前掲の「21世紀の特殊教育の在り方について」において、今後、特別支援教育の対象となると考えられる学習障害(LD)、ADHD(注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症について、診断の内容、方法、教育的な支援の在り方等を検討することを求めています。

「障害児教育指導法(02)」は、主に知的障害教育における教育課程や指導法について取り上げ、基本的な考え方や指導の実際を具体的な活動の場面を映像を通して解説、説明しています。

知的障害養護学校、特殊学級においては、領域・教科を合わせた指導と教科別の指導、領域別の指導を適切に組み合わせる授業を展開しています。

遊びを多く取り入れて、身体活動を活発に行いながら、学習を進めています。また、給食の準備、後片付けも、重要な学習

帝京大学 教授 大南 英明

ととらえ指導を継続して行っています。

これらの科目は、養護学校教諭免許状等を取得される方々はもちろんのこと、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生方、さらには、障害児、障害者とともに暮らす多くの方々に受講していただけますことを願っています。「小学校学習指導要領解説総則編等」には、次のような解説があります。

「(特殊学級の設置校において)このため、学校全体の協力的体制づくりを進めたり、すべての教員が障害についての正しい理解と認識を深めたりして教師間の連携に努める必要がある。」(前掲書P84)

「障害のある幼児児童生徒との交流は、児童が障害のある幼児児童生徒とその教育に対する正しい理解と認識を深めたりするための絶好の機会であり、同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場でもあると考えられる。」(前掲書P94)

障害についての正しい理解と認識を深めたり「共生」という言葉に共感できる人が少しでも増えることを期待しています。

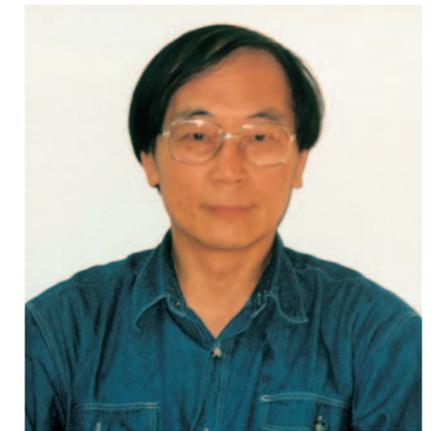
自然と文化の記号論(02)

昭和女子大学 教授 池上 嘉彦

「自然と文化の記号論」? いったい何をやるのだろうか? - まずは、そのような好奇心をもったのでいて下さればよいのではないかと思います。一つだけ加えておいてよければ、「記号」という用語の呪縛から自らを解き放つこと。「記号論」という名称からして、「記号」が対象とされるのは当然です。しかし、現代的な意味での「記号論」の関心は、簡略さや利便性を追求しての背番号的な記号でもないし、また、抽象化と厳密さを意図しての形式論理学におけるような記号表記のこともありません。もっとしなやかな概念なのです。一般に、「記号」は何かを表し、私たちはそこから何らかの「意味」を読みとります。つまり、そこから何らかの「意味」が

読みとられれば、それはすべて「記号」なのです。例えばたまたま目にとまった花や落ちて行く一枚の枯葉も、私たちにさまざまな「意味」を読みとらせます。そのような折、私たちは単なる「モノ」や「コト」を意味ある「記号」に仕立て上げているわけです。「文化」はそのような人間の創造的な営みによって生み出されます。意味を読みとる営みは、人間に限られることではありません。動物でも植物でも、あらゆる生物体は自らの環境の中で感知できる限りの刺激の意味を読みとり、それにふさわしい反応をすることによって生存しているわけですし、生物体を構成する組織(例えば免疫システム)のレベルでも同様の図式で捉えうる記号過程が起こっている

はずです。「意味」を読みとる(「記号」として捉える)という過程は、自然界における生命の営みの証しである - これが現代の「記号論」の認識なのです。



平成14年度大学院開設科目紹介

芸術文化政策 I (02)

政策経営プログラム 教授 徳丸 吉彦
東京工芸大学 教授 利光 功

平成14年度新設の大学院科目『芸術文化政策』の放送教材と印刷教材を担当しています。プランを作る段階から、私は利光功・東京工芸大学教授の協力をお願いしました。利光教授は美学・芸術学のご専門ですが、以前から芸術文化政策に積極的に発言され、日本アートマネジメント学会の顧問として活動しておられたからです。幸い、同教授の積極的なご参加をいただき、その結果、副題「社会における人間と芸術」という方向で、芸術文化政策を考えることになりました。人間と芸術のかかわりについて、「芸術は個人の営みであって、個人が独自にすべて自分の判断で行っている」と

思いこんでいる人たちもいます。しかし、その個人の趣味や価値観がどのように形成されたかを考えれば、人間と芸術のかかわりを社会という場から考える必要があることは当然です。そこで、芸術文化政策を歴史的に振り返り、とくに、日本の現在を考えるために明治時代を大きく取り上げました。また、ジャンルとしても、造形芸術、音楽、服飾を取り上げるほか、教育、国を越える芸術文化政策、地域社会、少数民族、といった切り口でも、現代的な問題を考えてみました。テレビというメディアの使用については、放送大学の水谷雄二郎ディレクターと補佐の田村玲子さんが、私たちの考えてい

ることを引き出して、具体的に映像化していただきました。どうぞ、現在のご自分の芸術活動を振り返るヒントとしてもお使いください。



左から、利光教授、徳丸教授

放送大学が開設する特殊教育教諭免許状の取得に資する科目

教育職員免許法施行規則に規定する特殊教育に関する科目	放送大学における対応科目		
	科目名	単位数	メディア
教育の基礎理論に関する科目	障害児教育論(02)	2	ラジオ
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	発達障害児の心と行動(02)	2	テレビ
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	障害児教育指導法(02)	2	テレビ

“海と太陽の町”八戸市にサテライトスペース

青森学習センター所長 水野 裕

放送大学青森学習センターは平成5年10月に学生受入れを開始し、以来延べ約9,500人の方々が学習に励んできました。

しかし、青森学習センターが青森県西部の弘前市に位置しているため、これまで県東部在住の方々に大変な不便をかけていました。このたび、放送大学学園・文部科学省・八戸市・青森県など関係各位のご尽力により全国で5番目に八戸サテライトスペースが設置され、平成14年度第2学期から学生を受け入れることになりました。

この6月22日に開所式を行い学生への供用を開始しました。八戸サテライトスペースでは放送授業の再視聴のほか、単位認定試験や面接授業も実施されますので県東部在住の方々にとって学習の利便性が格段に増大することになります。

サテライトスペースが設置された八戸市は、東北地方の代表的な臨海工業都市として、また、全国でも有数の水揚げ高を誇る漁港をもつ水産都市として発展しています。県内では青森市に次ぐ第2の都市で、人口は24万4千人、ウミネコの繁殖地として有名な蕪島や天然の芝生が海岸近くまで敷き詰められていることで有名な種差海岸など美しい海岸の風景にも恵まれています。この12月には東北新幹線が八戸まで開通する予定で、交通の便も飛躍的に良くなり観光面でも期待されています。

八戸サテライトスペースは、JR八戸駅に隣接する八戸地域地場産業振興センター（愛称：ユートリー）の4階にあります。「ユートリー」は、八戸地域の経済・産業振興の拠点施設として建設されたものですが、八戸サテライトスペースと同じフロアに主として産学官連携の窓口を目指す弘前大学のサテライトもほぼ同時期に開設され、このフロアは生涯学習や学術の中核的拠点となることが大いに期待されています。

八戸サテライトスペースの面積は104m²で、再視聴用ブース20席、放送教材、印刷教材、学習用図書などが設置されています。

21世紀は、本格的な生涯学習の時代といわれていますが、この八戸サテライトスペースが地域の方々への生涯学習に対する要望に応えられる拠点となるよう職員一同努力していきたいと思っています。



世界文化遺産の姫路城下にサテライトスペース誕生

兵庫学習センター所長 榎見 和孝



6月14日に姫路サテライトスペースが「イーグレひめじ」内に開設されました。設置にご尽力賜りました、関係各位に感謝申し上げます。急激に変動する社会において、教養教育、高度専門職業人教育、生涯学習など多様な要望に対応した新しいタイプの放送大学では、既に全国で70万人が学び、現在10万人が自己の向上を目指し学習しています。姫路市は周辺の市郡町をあわせ人口約135万人を有する都市です。当サテライトスペースでは、全科生、選科生、科目生および修士全科生、修士科目生の募集および学生の所属変更などが開始されており、兵庫県西南部における機能的で多様な学習の拠点として、多くの方々にご活用いただければ幸いです。

姫路市には、華やかな構成美が羽を広げて舞う白鷺にたとえられる姫路城があります。この城は戦歴をもたず、戦火や火災にも遭わず、400年の時をこえた貴重な世界文化遺産です。イーグレひめじの建物は地上4階、地下2階で、屋上からは姫路城郭の雄大で美しい景観が眺望できます。な

お、この建物のお城側壁面は、お城の石垣のフォルムをイメージしたアルミカーテンウォールが透明ガラスで覆われ、サッシ色はライトグレーでエスカレータ空間が地下2階から4階まで開放的な文化活動の場となっております。地下2階の姫路サテライトスペースの他、姫路市男女共同参画推進センター、国際交流センター、市民ギャラリーやアリーナなどと専門店がある公共・商業ゾーンとして、JR姫路駅から北へ徒歩約10分程度です。姫路城、美術館、歴史博物館、好古園など、歴史と自然環境の調和した素晴らしい学習環境です。

姫路サテライトスペースは、兵庫学習センターの分館的機能を持ち、テレビとラジオの全科目の再視聴学習ができ、印刷教材、参考図書とビデオがあり、面接授業や単位認定試験も実施、身近で楽しい「学び」の場となることをご期待ください。

就任のあはつ



放送大学流バリアフリーの「逍遥」学を目指して

人間の探究
総合文化プログラム(文化情報科学群)助教授 大石 和欣

学生と対話をし、哲学を体系づけていきました。彼の学派が「逍遥学派」と呼ばれる所以です。現代でもこの伝統は生きています。英国留学中学んだのは、対話をしながら思索し、議論することで学問を探究する姿勢でした。専門の文学を含んだ学際的な議論は先生の部屋にとどまらず、食事の場、お茶の時間、ラグビーの観戦中、そして居酒屋と時間と場所を選びません。指導も手紙、電話、拳句にはEメールでとあらゆる手段を使って柔軟に対応します。受ける方にとっては緊張の連続ですが、常に思考する癖がつくことは間違いありません。講義室は学問

にとって絶対必要条件ではないのです。

私自身子供の頃からテレビやラジオで勉強することが多く、放送による学習には無限の可能性を信じております。あらゆる媒介手段 Media を使って教室外に飛び出し、数多くの方々と対話をし、自由闊達に思索し学問を探究することは不可能ではないと思っております。皆さんとともに時間と空間に制約されない、真の意味での「バリアフリー」の放送大学流の学問を模索していければと希望しております。よろしくお願ひいたします。

本年5月1日付で着任いたしました。周囲の錚々たる先生方を見てその贅沢な講師陣に驚きつつも、これでは自分が学生の時と変わらず勉強の強迫観念にとらわれたままなのはもっともなことだと妙に納得しました。

西洋では、古典の時代より対話が哲学の伝統としてあらゆる学問の底にどっしりと腰を下ろしています。アリストテレスは、講義室ではなく外を歩きながら

放送大学名誉教授の称号授与

平成14年7月2日、学長室において、放送大学名誉教授称号授与式が行われ、本年3月31日付けで退職した3人の元教授に授与されました。

名誉教授の称号は、本学の教授等として通算10年以上勤務し、教育上、研究上又は大学の運営上特に功績があった者等に退職した場合、選考の上授与さ

れるものであり、今回が初めての授与となります。

授与された3人の元教授については、以下のとおりです。

渡邊二郎元教授
平成4年4月1日付けで本学教授に就任
(専攻)人間の探究
(分野)哲学

平川暁子元教授
平成元年4月1日付けで本学教授に就任
(専攻)自然の理解
(分野)物質科学

三ツ木任一元教授
平成2年8月1日付けで本学教授に就任
(専攻)生活と福祉
(分野)社会福祉



左から、三ツ木元教授、平川元教授、渡邊元教授

平成14年度第2学期教務スケジュール

学部(教養学部)						
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第2学期の授業	1(火)		28(土) 29(日)	4(土) 5(日) 20(月) 21(火)		31(月)
	放送授業期間			ゆとりの期間	放送授業期間	集中放送授業期間
第2学期の学習	5(火)	6(金)			4(火) 19(水)	
	12(土)	面接授業(毎週型)		22(日)	面接授業(集中型)	
平成15年度の準備	下旬~上旬		2(月) 必着			
	通信指導の送付		通信指導提出		中旬	成績通知の送付
第1学期の出願	13(水) 消印	19(火) 必着	2(月)	10(火)		
	面接授業(集中型)の科目登録申請		面接授業(集中型)の授業料納入		5(日) 9(木)	面接授業(集中型)の追加登録
平成15年度の準備			15(日) 消印	平成15年度第1学期出願 (平成14年度第2学期で学籍切れの学生)		
				28(金) 必着	上旬	科目登録決定通知の送付
第1学期の準備				27(月) 消印	1(月) 必着	
				科目登録申請要項送付	第1学期科目登録申請	3(月) 14(金) 授業料納入

大学院(文化科学研究科)						
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第2学期の授業	1(火)		28(土) 29(日)	4(土) 5(日) 20(月) 21(火)		31(月)
	放送授業期間			ゆとりの期間	放送授業期間	集中放送授業期間
履修関係	下旬~上旬		2(月) 必着		中旬	成績通知の送付
	通信指導の送付	通信指導提出		中旬	単位認定試験通知(受験票)の送付	単位認定試験
平成15年度の修士全科目				3(金)	1(土)	
				単位認定試験通知(受験票)の送付	第1学期科目登録申請	24(金) 消印
第1学期の準備				7(金) 必着		
				科目登録申請要項の送付	第1学期科目登録申請	24(金) 消印
平成15年度の修士科目						
				15(日) 消印	平成15年度第1学期出願	
第1学期の準備					28(金) 必着	
					3(月)	14(金)
第1学期の準備						
					授業料納入	3(月) 14(金) 授業料納入
第1学期の準備					上旬	中旬
					合格通知書の送付	
第1学期の準備					中旬	下旬
					印刷教材の送付	

教務のお知らせ

単位認定試験受験センター変更手続きについて

平成14年度第2学期単位認定試験の所属学習センター（サテライトスペース）以外での受験を希望される方は、平成14年10月1日から11月30日の間に、「学生生活の栞」巻末の「単位認定試験受験センター変更願」を提出してください。

なお、以下の場合も、変更が必要な方は手続きをお願いします。

1. **国立ランチ試験場**は、平成14年度第2学期から閉鎖しますので、平成14年度第1学期以前に「以降」として国立ランチ試験場に受験センター変更の手続きをした方は、受験センターが所属学習センターに戻ります。
2. **町田ランチ試験場**は、平成14年度第2学期から東京女学館大学に移転します。平成14年度第1学期以前に「以降」として町田ランチ試験場に受験センター変更の手続きをした方は、新しい町田ランチ試験場に移行することとなります。
3. 所属学習センター（サテライトスペース）ではなく、新設された**八戸、姫路サテライトスペース**での受験を希望される場合は、手続きが必要です。

編集後記

最近、研究会活動に精を出している。大学時代の経験が今でも身体に染み込んでいるらしい。その昔大学に入ると、まず秘密結社の如くの洗礼を受け、先輩達の研究会へ加入させられた。討論の作法があって、特にヘーゲルを学ぶわけでもないのに「定立、反定立、総合」の極意を授かった。研究会の醍醐味は、何といってもこのなかの「反定立」だ。自分とはまったく異なる意見を持つ相手が突如として現れる。理解の及ばぬ者には絶望を感じるが、うまく粘って「総合」に持ち込めれば希望が湧いてくる。自分ひとりの理性には限りのあることをとことん知らされる面白さがある。「オン・エア」の編集でも、なるべく決定的な「異なる意見」を探し出し、読者諸氏間の「総合」を引き出したいと願っている。

（坂井素思）

教養学部科目コードの桁数の変更について

教養学部では、科目登録申請時や通信指導問題、単位認定試験などの処理を行う際に、科目名に応じた5桁の科目コードによりコンピュータ処理を行ってきましたが、平成14年度第2学期からはコンピュータ処理の都合により、この科目コードを5桁から7桁に変更することとなりました。

については、今後、通信指導や単位認定試験における解答時や科目登録申請等における科目コードの記載にあたっては、間違いがないようご注意ください。

1. 変更内容

科目コードの桁数

（変更前）5桁

（変更後）7桁

通信指導問題の送付時に、新科目コード7桁を通知します。

2. 変更時期

平成14年度第2学期通信指導問題の解答から実施します。（ただし、学校図書館司書教諭科目（集中科目履修生）については、平成14年度分の成績通知から7桁となります。従って、平成14年度の学校図書館司書教諭科目（集中科目履修生）の単位認定試験は5桁で実施します。）

3. 変更理由

開学以来の授業科目の増加及び大学院の開設による科目の増加に伴い、科目コードが不足したため。

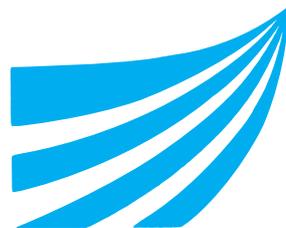
大学通信編集委員会

（平成14年度）

委員長	教授	阿部 齊
副委員長	同	柏倉康夫
委員	同	徳丸吉彦
〃	助教授	白井永男
〃	同	坂井素思
〃	同	杉森哲也
〃	同	大橋理枝

（編集事務担当

教務部修学指導課）



放送大学学園

<http://www.u-air.ac.jp/hp>
ISSN 1343-3369

R100